

「制作実習」－復習問題(12).doc

氏名: ブルース=ポリモード

クラス:

こうして、コードルミュージックの世界からちょっとだけ、モーダル界に入ったよーに思ってるかもしれないが、いちおーいっつく。コードル界とモーダル界の境目は **avoid** の扱いにある！ってこと。

- **avoid** を経過的な **approach note** ぐらいにしか扱わないのがコードル界
 コードル界の進行エンジン⇒ドミナントモーション
 [和音の連結 Chord Progression]
- **avoid** を特性音 **characteristic tone** として積極的に扱うのがモーダル界
 モーダル界への拡張エンジン⇒Sus4 の拡大
 [和音の結合 Chord Connection]

ってこと。

半終止地獄を目前にいよいよ現場音楽に近付いていく。。。。、その前に脱線して

★Blues の発生①～さわり程度

最も基音に近い倍音(P5th)を5回累積すると Major Pentatonic Scale が生まれる。

P5th上行インターバルの累積

P5th上行インターバルの5音をオクターブ内に凝縮すると Major Pentatonic Scaleが生まれる

第1モード 第5モード

ドレミファソラシドの Major Scale (Ionian) から4度と7度(ファとシ)を抜いたスケールが Major Pentatonic Scale になるんで、世間ではこれを“ヨナヌキ(4・7抜き)”と呼んだりして、舐めてる向きもあるが、たぶんピタゴラス(pythagoras, B.C. 572~497)以前から、時代や地域を越えて用いられている神聖な原始スケールの一種だ！、と思われる(確証は無い)。

でもって、

この Major Pentatonic Scale の第5モードが、ロックで多用されてる Minor Pentatonic !

A Minor Pentatonic Scale

C Minor Pentatonic Scale

Major Pentatonic が上方倍音から生まれる5度累積である一方、

Minor Pentatonic は下方倍音から生まれる4度累積(5度下降)と捉えることもできる。

P5th下降インターバルの累積

P5th下降インターバルの4音をオクターブ内に凝縮し V音を加えると Minor Pentatonic Scaleが生まれる

↑
上方倍音列の骨格を作っているV

そもそもが Major Pentatonic は様々な民俗音楽や民謡・演歌とかに多用されているんだけど、Minor Pentatonic は現代のポップミュージックにて、さらに、もっと、メチャメチャ多用されている。つつーくらい汎用性が高い

と、ここ(Minor Pentatonic)までが Blues Scale の原形であって、このままではまだ Blues では無い！

★Blues の発生②(近親調 related keys と Diminished 7th Chords)

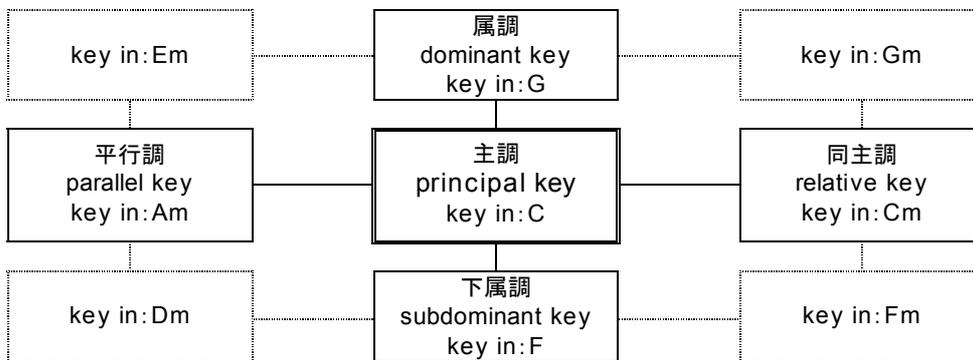
Blues Scale にはここまで述べた Minor Pentatonic tone の他に、もうひとつ重要な音が含まれているんだけど、それを理解する為の基礎学力養成編として近親調 related keys を説明しちゃう。

1436年(フランスとイギリスの百年戦争末期)デュファイによる<ドミナントの発見>以降、西欧音楽はカデンツを形成しやすい Major Key と Minor Key の2つに集約されることになる。(ジャンヌ-ダルクが処刑されたのは1431年)

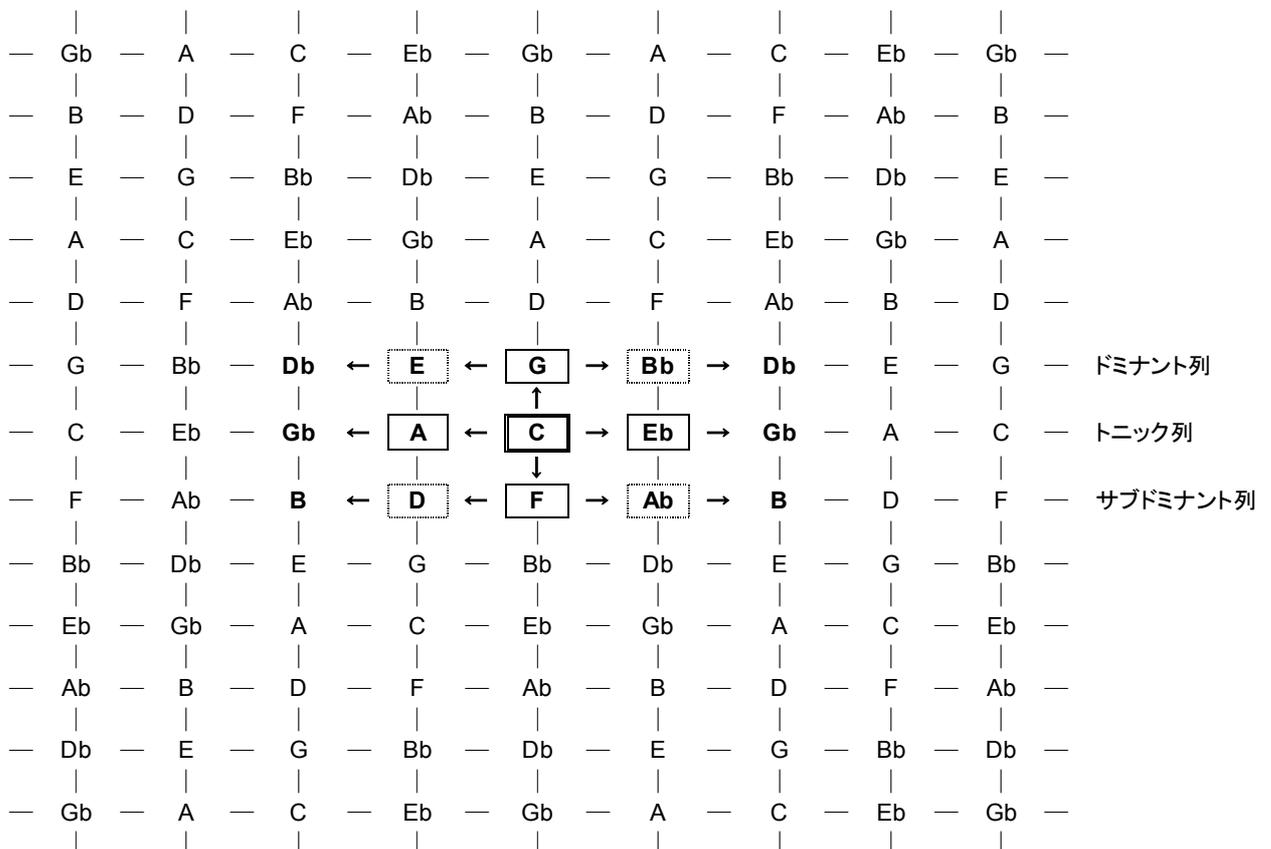
でもって

職人(当時は作曲家では無い)達は中世的「教会ボンデー」による単調さから脱皮する為、ルネッサンス的「聖と俗の混在」〜バロック以降へと、主調からお隣調を経由して、徐々に遠くの key へ転調していくシステムを創り上げてく。

そのお隣さん同士の親戚関係が、9つの key で構成される近親調！=町内会



で、
これらを組合わせてくと、、、



こんな、おそろしい図ができあがる。

ここで注目すべきは横の1列



これは、Cdim7 コードそのものだよ。

よーするに、

□dim7 コードってのは m3rd 堆積(オクターブの4分割)

であり、さらに

ドミナントの近親調列を全部弾いたのが ⇒ Vdim7 コード

トニックの近親調列を全部弾いたのが ⇒ I dim7 コード

サブドミナントの近親調列を全部弾いたのが ⇒ IVdim7 コード

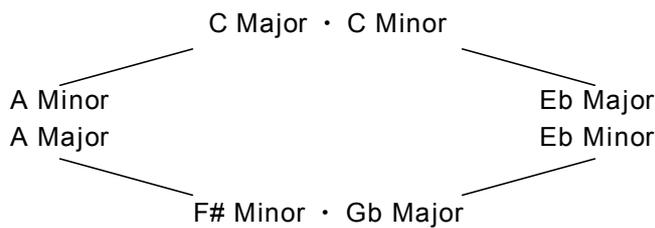
ってことなのだ。

※右斜め下に進めば□aug コード=M3rd 堆積(オクターブの3分割)⇒3つの調的性格 T 列・S 列・D 列を含んでる!

※左斜め下に進めば Whole Tone Scale(オクターブの6分割)←chromatic のバリエーションと考える。

で、

そこから「中心軸システムの組織表(by Bartók)」ができあがる。



こうして、平均律内の可能性から自然の摂理・宇宙の統一理論に迫っていく。

★Blues の発生③(Blues Scale !)

で、

Minor Pentatonic に近親調 bIII m の m3rd 音を追加すると、、、



出たアー、これが、ブルーススケールだ!

それからそれから話しはこれで終わらなくて、

ブルース・スケールには厳格なピッチの間に「ブルーノート」とよばれるイカゲンなピッチが挟まってる



ってな解釈がいつしか定説となる。

ちなみに、こーゆー「厳格なピッチの間にイカゲンなピッチ」ってのは、ブルースに限らず、、、。たとえば、三味線音楽の勘所(弦を押さえるツボ)には、構造的にも絶対視される厳密なスケール上のピッチ(音高)と、イカゲンなほうが人気を博す「ウレイのツボ」とよばれるピッチ(音高)がある。



ひとつ下のピッチも、ひとつ上のピッチも非常に厳格であるのに対し、その間のピッチはかなりの幅(オンチ)がゆるされる、ってこと。三味線音楽に関しては「潜在単位の結合」(by 徳丸吉彦)っつ宇宙のヒモみたいな理論で、ゴージャ

ス且つ明快な説明がされているので、調べるもよし。

ブルーノートに関しては、めっちゃめっちゃオモロスギル理論がたくさんありすぎるので、調べるも尚よし。

で、

やっと **Blues Scale** が判明したが、このままではまだ **Blues** では無い！

★Blues の発生④ (Blues の正体)

ここからさらに恐ろしいことが起こる。

中心軸システムの組織表にて、横並びになってた C Major と C Minor (C dur-moll)。

別の見方をしちゃえば、上方倍音から生まれた Major Triad と、下方倍音から生まれた Minor Triad。

かんたんに言っちゃえば、メジャーキーとマイナーキー。

Major Scaleの3度堆積 C Cm7 Ebm

基音 第5倍音 第3倍音 Blues Scaleの3度堆積① Blues Scaleの3度堆積②

ブルースは、なんと、それを同時に鳴らしちゃうのだ！

これがブルースだ！

とか、とか、

左手はメジャーなのに右手はマイナー弾いちゃう

★Blues の発生⑤ (Blues 進行 = ブルースチェンジ)

黒人のコスモでユニバースな感性が、上述した音響界を創り上げた。

で、

「んんん、とりやえず **C のブルース** で」つた次の瞬間には、せーのでブルースがはじまっちゃう。それは、なぜだ？

白人が生んだ I・IV・V で成り立つカデンツ (K3&K1) を、ぜんぶ $\square 7$ にしちゃって、3行詞⇒12小節に突っ込む。

C Blues : C7 F7 C7 G7 C7

I IV V I I

ト S D

なにがどーしてどーなった～

なにがどーしてどーなった～

だからってどーにもならないぜえ～

これが、ブルース進行。死んでも解決しないブルース進行。ちなみに歌詞も解決しない

この12小節の上で、ブルーススケールを弾きまくる。

C Blues Scale

どんなにコードが変わろうが、誰が何をしよーが、とにかくブルーススケールを弾きまくる。

よって、key さえ決めちゃえば、せーので延々とブルースは止まらない。

key を探し当てちゃい共有しちええば、とにかくブルースは止まらない。

ってのが、ブルースのコア(核)進行だ！

ってことは、とーぜんバリエーションもある。ってこと

優先順位1位のブルース・バリエーション進行は、これ

C Blues : I - - - IV S - I - V D IV S I -

このD-S進行に注目せよ

ドミナントの次にサブドミナントを繋げちゃう。

メジャーとマイナーの不安定な垂直軸に、ドミナント→サブドミナントっつー不安定な水平軸を上塗りする。これがブルース。

さらに、

コードルの規則をブルースに押し込んでく。と、、、

C Blues : I IV I IV I V IV I V

こんなふーになったり。

さらに、

分割の連続をブルースに押し込んでく。と、、、

C Blues : I IV I sub II of IV sub V of IV IV II of b III V of b III

Re. II m7 Sub V S II-Vのクロマチック下降

こんなふーだったり。

どこまでもブルースのバリエーションは増えてく。

それでもやっぱり

この12小節の上で、ブルーススケールを弾きまくる。

C Blues Scale

どんなにコードが変わろうが、誰が何をしよーが、とにかくブルーススケールを弾きまくる。

さらに、

コードがマイナーになるーが、なんになるーが

C Minor Blues : I - - - IV S - I - sub V of V V I V

Sub V D T D

それでもやっぱり

この12小節の上で、ブルーススケールを弾きまくる。



どんなにコードが変わろうが、誰が何をしようが、とにかくブルーススケールを弾きまくる。

「 Blue Monk 」 by thelonious monk

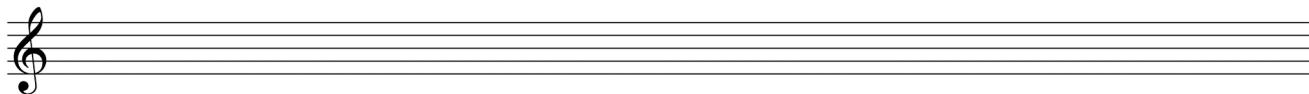
Bb Blues : I IV S I IV S I V D I V D I

機能はサブドミナントなのに□7コードだから半音上の□dimも使えちゃうブルースの世界

ってことだ。

『シンプルなものこそドコマデモ深い』ってな“音楽の法則=生命の法則”が、サイン波や、ホワイトノイズや、ミニマルや、石庭や、ブルースにはあるのよ。ってことだ。その逆に『最先端のセオリーこそ単純で解りやすい』ってのもあるから気をつけヨ

[問1] F のブルーススケールを書きなさい。



[問2] 任意のキーでブルースチェンジを書きなさい(12小節)。

